

## 2023 年度（令和5年度） 学校運営の方針および評価計画と年度末評価

4年度は、コロナの様相が落ち着く傾向となり高校生の県外志向が上昇、消費者物価指数上昇のため大学よりも専門学校志向が強まった。本校の学生募集にとって前者は向かい風、後者は追い風となった。

令和3年度は県内高校3年生在籍数が前年度より1300人減少したが、4年度初の在籍数は上昇をみた。4年度の高校3年生在籍数は前年度とほぼ同じという状況なので、「ここは攻めの姿勢で」と考え募集要項を大幅リニューアルした。結果的には、前記の向かい風と追い風で相殺の状況である。

すなわちAOと指定校、特待生出願が増え高校生の反応に手ごたえを感じたが、一般や社会人が減少し、結果として4年度と同数の在籍数となり、顕著な数字には表れていない。

高校の進路担当教諭からのアドバイスによると

○募集要項の浸透には最低2年かかる 高校2年生に周知徹底すると2年後に成果がでる

○地道で親身な学生指導、学習上の効力感から発出する口コミや評判が募集に影響する

これを参考に、6年度用募集要項をさらに微修正し学生募集に取り組む。

なお、令和5年度県以降の高校3年生は漸減していく。見通しは明るいとはいえない。

この中でどのように学校経営および運営をしていくか。これは構造的課題、とりわけ学校をとりまく環境もふくめた構造的課題である。学校だけの取組で大きく改善することは易しくない。この状況で考えられる着実な方途は「収入に見合った支出」ひいては「その支出に見合った学習活動」を組織することである。換言すると、学校運営全体の構造化である。

昨年度に続き下記3点を取組の重点として学校運営に取り組む。

- (1) 学生確保 充足率の向上
- (2) 適切な教育課程の編成と実施
- (3) 信頼される学校づくり

各項の評価項目と評価基準は昨年度を踏襲する。

評価項目および評価基準、2022年度と2023年度の評価は以下である。

	評価項目	評価基準	2022 年度	2023 年度
(1)	<b>学生確保 充足率の向上……募集要項リニューアルが奏功すること</b>			
	①新入生数の増加	70人以上A 65人以上B 45人以上C 未満D	60人 C 辞退 なし	55名 C 辞退3あり 栄養士科新入生が減
	②OC参加数の増加 入学可能者 OC 参加実数	110人以上 A 100人以上 B 90人以上 C 未満 D	総計 181人 入学可能者実数 96人 C 歩留まり 62.5%	総計 145人 入学可能者実数 89人 D 歩留まり 61.8%
	③退学者数の減少	2人まで A 4人まで B 6人まで C それ以上 D	退学者数は6名 C	退学者 2名 いずれも年度末 A

(2)	適切な教育課程の編成と実施……効力感のある授業実践と指導力向上			
	①常勤教員の指導力向上	教員の自己評価 4 点満点で評価 平均 3.0 以上 A 2.8 以上 B 2.5 以上 C 未満 D	平均値 2.82 B	平均値 2.62 C
	②学生による授業満足度向上	学生の評価 4 点満点で評価 (全体として) 平均 3.0 以上 A 2.8 以上 B 2.5 以上 C 未満 D	全校平均 3.25 A	全校平均 3.4 A 専攻科 2 年 昨年度 3.2→3.6 栄養士科 2 年 昨年度 3.3→3.8 適応が進んだといえる
(3)	信頼される学校づくり……保護者、来校者からの評価向上と情報発信の充実			
	①保護者給食試食会、食事会の参加者評価向上	参加者の評価 4 点満点で評価 平均 3.6 以上 A 3.2 以上 B 2.5 以上 C 未満 D	7 月 栄養士科給食試食会評価 料理の組み合わせ 3.88 受付やサービス 3.92 12 月 調理師科試食会評価 平均 3.79 いずれも A	7 月 栄養士科給食試食会評価 料理の組み合わせ 3.92 受付やサービス 3.96 12 月 調理師科試食会評価平均 平均 3.98 いずれも A
	②悠和祭来校者の評価向上	来校者の評価 4 点満点で評価 平均 3.6 以上 A 3.2 以上 B 2.5 以上 C 未満 D	2 月 18 日悠和祭実施 来校者評価平均 3.74 A	2 月 17 日 悠和祭実施 来校者評価平均 3.71 A
	③多様なツールを活用した情報発信	教職員の自己評価を 4 点満点で評価 平均 3.6 以上 A 3.2 以上 B 2.5 以上 C 未満 D	職員の平均 2.42 D	職員の平均 2.61 C 職員は各種広報に尽力した 米粉レシピ タケノコレシピ オートミールレシピなど

学外からの要請をうけて、○オートミールのレシピ紹介 ○米粉使用のレシピ開発 ○大積地域のタケノコ使用のレシピ開発 に取り組むなど、多くの情報発信に取り組めた。また栄養士科と調理専攻科の 2023 年度 2 年生は、1 年次に比べて授業満足度が向上し、対外的な行事でよい評価を得られた。

少子化の影響により、学校運営は厳しい時代となっている。しかし、長い歴史をもち地域の食産業に貢献してきた本校の強みをいかし、食を通じて地域に貢献する有為な人材育成に来年度以降も鋭意取り組む。